

普及活動情勢報告（平成29年12月分）

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

環境制御技術を使いこなそう！ ～キュウリ環境制御現地検討会～



現地ほ場の生育状況を確認

11月20日に、毎月開催予定の環境制御技術の現地検討会を行い、炭酸ガス発生機の導入農家7戸で活発な意見交換をしました。

現地ほ場の生育状況を確認し、ほ場主から温度やかん水、肥培管理について、注意していることを説明してもらいました。普及所からは、このほ場の前年の生育データや栽培管理と比較し、違いや注意点について説明しました。参加者からは「今年は前年よりかん水量を増やしている」、「早朝加温で葉の蒸散をさせないかん」などの意見が聞かれました。

来月から出席者各自のほ場の生育状況（開花位置、収穫位置、茎径など）、ハウス内温度を把握してもらい、意見交換を行う予定です。

おいしい伝統野菜を販売 ～チームマキノのマルシェ～



学生も販売を体験

12月3日、チームマキノが大丸屋上でマルシェを開催し、土佐伝統野菜である牧野野菜を販売しました。普及所は、チームマキノの事務局を担っており、マルシェの準備と開催を支援してきました。この販売会では、高知市北部にある網川営農組合や北七ツ湊集落活動センターで栽培された山内家伝来ダイコンなど、牧野野菜が販売されました。また、会場では、潮江東小学校や高知農業高校から牧野野菜の研究発表も行われ、賑わいをもたらしました。

今後も、普及所は、チームマキノの事務局として牧野野菜のPR・販売を支援していきます。

なんとか生育は持ち直しました ～施設トマト現地検討会～



若い生産者が熱心に観察中

12月5日、施設トマトの現地検討会を春野地域で実施し、生産者や農協職員ら25人が参加しました。今回は若い生産者の参加が多かったこともあり、積極的に意見交換をする様子が見られました。参加者からは、「生育のはじめは台風の影響があったが、持ち直してきた」、「この時期の病害には特に注意したい」などの声が聞かれました。

これから収穫作業が増えていきますので、普及所では病害の未然の防除や、今後の気象予報に注意して管理していただくよう呼び掛けるとともに、関係機関と協力して今後も支援を続けていきます。

こう切ればあなる ナシの整枝・せん定 ～JA高知市三里果樹部会～



せん定の実技を行う普及員

12月13日、JA高知市三里果樹部会のナシのせん定講習会と研修会が行われ、組合員8名及び関係各機関5名が参加しました。普及所から整枝・せん定のポイントを説明し、部長とともに実際にせん定しながら、「この枝は側枝としておいておく。2年枝主体で果実を取る」など解説しながら1樹をせん定し仕上げました。

研修会では、普及所から本年度の気象経過と果実品質や高温障害果発生対策、かんきつ類の今後の栽培ポイントなどを説明しました。参加者からは日頃の疑問点など活発な質問がなされました。

きゅうり経営を知ろう！ ～きゅうり経営勉強会の開催～



熱心に話を聞くJA青壮年部員

12月13日、JA高知春野でJA青壮年部からの要望で、初めて「きゅうり経営勉強会」が開催され、16名が参加されました。

普及員が講師となり、春野のキュウリ専作農家の経営状況がどうなっているか、経営発展していくためには何が課題かなど、農家の生データを活用・分析した結果を解説しました。

参加者は皆、非常に熱心で「個別の経営分析・診断をしてみませんか？」という呼びかけに、5名が名乗りを上げてきました。

今後も引き続きJAと協力し、オンライン経営診断システムなども活用しながら、若い生産者の興味を引き出す取り組みを行っていききたいと思います。

グロリオサで経営分析始めませんか？ ～三里複式簿記教室～



説明に聞き入るグロリオサ生産者

12月21日、三里複式簿記教室16名を対象に「経営分析による所得の高い経営を目指しませんか？」というテーマで勉強会を行いました。分析では実際の教室メンバーの5カ年分のデータを使い、分析で分かることや、より効率的に所得を上げるには、個々の経営分析が有効であることを説明しました。

参加者からは「ぜひ自分の経営分析をしてほしい！」、「今まで記帳データを振り返ることはなかったなあ」といった声があり、少しずつ経営改善の意識づけができてきました。今後は農家と一緒に分析結果に基づいた対策を栽培面も含め支援していきます。